

の人ニ近代學ヲ修め利便又修め速便なすも
 吾邦ノ東ニても西ニても世界全圖ニ按むるに地ハ和蘭
 帝國ニ至るに昂^{エウロツパ}歐羅巴大洲ニ属する一大島なり其地
 三列ニ分る「エングランド」「スコットランド」「イレランド」と
 其地ニても熱帯をエングランドニても我々倭國ニ距るに
 西海九七十里余なり其地小極出地四十一度なり
 其地ニても海ニても其地ニても氣候和適土地肥沃法穀農業を
 且良ると產物を中錫ハ最上と云ふ又毛織物ハ他國
 ニ勝る云俗天性勇悍最水戰を多し俗を舟と
 稱す且天文曆學を始め學術法藝を精究し皆他の

イ
キ
リ
ス

五福一壽之冠
總界全書
按多々地ハ和蘭

在清王王昂歐羅巴大洲小洋一大島在
其地

三刑「カふふ」カレゲラシド」スコットラシド」イ、ルラシド」と

不地ても熱名をエングランドより我名傍に距ると

西海凡七千里余所至乃小極出地五十一度

五十五度解子午氣候和適土地肥沃德穀豐稔

唐海邊より交趾の利あり山谷より琅瑤銅と出

且良馬之產者就中端之最上者乃又毛織於他國

腸止俗天性勇悍最水賊多俗爲舟

擇る且天文曆算と始む學術法藝と精究し皆他の

邦人、脇山、西墨利加、他の三大洲中より併せ有つて
属土多し。是より脱たり。我邦、寛文六年、泉州、堺
の浦より阿蘭陀の如比丹ヤシヨウスと、同船し。其土人
アヒジエと名を稱し。云々。上江戶に入り。清国と交易の

屬必多——是主内說也——我邦交長六年——泉別憐

の浦より阿葉陀の如比丹ヤシヨウスと。同船一子五人

アレジエの老婦より
手紙上江戶に入り
清國と交易の

新中上
新めく
免科
壬午
九月
九年
滞留
ヤン
のハ
代ヨ
刻ウ
ス
を
今

磁轍を揚ふと名くして今地名をたつアンジを日中橋との安治丁として右宅を

神祖神劔を以て天下を治す。殊に各公の治礼無殺の事なり。此等回

隙の中より日中ハ武庫の捨りさる様々あるを
 去年よりても武庫を急迫ハ異國分

神皇の遠大なる御作也もやまゝ今の世にも

所集平如一下
蘭院同根肥
前玉平久來
伴也

荷蘭院
（本）
交長十四年
沙米下下
金水
一
在

同時なる一

頃ろ「ケエムヘル」の日中誌と関する彼一千八百九年
我交十七年 邦祖より和蘭加比丹「ヤーコッ
プスベッス」に伝牌と賜ふもの 按て我方のく
「ヤレヨウス」に是れありハこの「ヤーコップスベッス」
こそ不精なるなり

此交十七年壬子より平戸へ船を来し交易を
同十八年秋国王姫と書と持て出返書となするも
八月廿日迄未だ

相と欲しきものハ釋し継ぎ一紙象服入込炮臺遠目
渡 長き名程なり 六日夕に二九花火を多く入上渡るもの

同十九年又使をける元和二年八月廿日
条の清和年如くもなるなり
同日所業院に於て今渡来りし 仔細利便ハ其も
何そ有るなりや

答曰所業院に百有余年 其船運送より仔細利便ハ
其後年々渡来せし 交易利便少きなりとて元和七
年より彼より輝しきものありとてなりとてや船より
又より三十八年を經て寛文十二年十月仔細利便
船一艘來はきとて加比丹「セイモンゲルハウ」再い交易
船のありきなりとて此度ハ其の如くや其叶はきと
後渡来りしより其の如く七月廿日由帆せし

字ハ書法を弁（き）りぬの再写セーとんえ字體を為さる
是必イギリス人ナラシ一傳書の新字ハ彼高臣の法
人書をもととなす一地名ハまゝ曉るべし

本船是亞馬利干拿遲七月之間回來

上看皮草帶回來賣

紀列浦靈泉

寛政三年三月廿六日夕方無雪之内大高浦（雪水式）
般來寺般長十乃斗り中邦々音不積征き般長八乃
斗止而乃積位形紅毛取く似く少水也同晦日夕大施三
十程放ちく酒と香を踊振のやうく晦朔のれと水
を公朔日以少水とあらう——魁首志未始集紙種沙塵

[illegible]

大炮五十員在中華國赴皮草國而去無經貴地
偶道風浪漂流至此左貴地不過三五日之間不解
風而左此好風即日本此本船人率百口貨物實
是銅鍊並無別物船主堅德力記

此は是等船の座より作るものなり紅毛船

とハ怪

花其ハ一ガナク一和蘭王都の名
皮草ヒロサラと云地名の事

漂流至

此は偽りなりと云ふも何て云ふを云せしなり

次の横文字の証書と云ふは今も仔細利便なり

ソキに文解と云ふは諸厄利亜要港の書
知くしと云ふは主役と云ふはたのめきりなり中
と云ふ

亞墨利加の内新諸厄利亜のホストンの地一はく友
船之船師イヨアンヘンゲリキ

按く堅徳力ハ此ヘンゲリキなり一列ハ船の
何と云ふも

文化丁卯年述々来泊するホストン船と云ふは合
なり是必漂流の船とハ云ふも怪しき船とハ云ふも

此處の地畝をんぬる船をきくはなるを
と用也。其法は海地の畝を化ふは彼米の
よりなるを以て地をもちたふ。但中三源
忌水本を乞ふ。其を以て名をよむ。我邦は法
重の船は信山より来る。地をいふ。其
船より来る。其也。

同八年丙辰八月十五日東振夷地アフタと云ふ一泊せし
大船長三十万余幅六万余大船二十四門鉄炮百挺播
二巾帆十四千石積往歸船を艘中半船二艘余各
人救百十人同婦人一人。其由は上シゲレエと云ふ
由は月中中申と云ふ。其由は上シゲレエと云ふ。其由は上シゲレエと云ふ。

此處の地畝をんぬる船をきくはなるを
と用也。其法は海地の畝を化ふは彼米の
よりなるを以て地をもちたふ。但中三源
忌水本を乞ふ。其を以て名をよむ。我邦は法
重の船は信山より来る。地をいふ。其
船より来る。其也。

此處の地畝をんぬる船をきくはなるを
と用也。其法は海地の畝を化ふは彼米の
よりなるを以て地をもちたふ。但中三源
忌水本を乞ふ。其を以て名をよむ。我邦は法
重の船は信山より来る。地をいふ。其
船より来る。其也。

たがやせん程之列を暗然多き場市にせん一と迄業
因に船方より新く抱入有令に荷物積込受領地出航
仕今日迄存仕に要せん且亦當年加比丹交代期年
より此を是地新加比丹渡来仕在告せん而条件より
迄不々及此れを故取防に而法商銀より賦收無
き多死失仕ゆい不意に患よりを授仕合を是地新
加比丹渡来不中要せんをいひんげつを金ふ二む
みひ

己七月

拙い今年に船取例年のやうな事なアメリカ船と
ふ多組英神の人にもアメリカ人と稱せし由傳々

船首よりエリサオフ子ヲヨルクと致せしエリサオ船
に各オフものなり子ヲヨルクを亞墨利加例の一
地名隋厄利亞國の市販なりと云ふ洋郎子ヲヨ
ルクの某船の要なりと云ふ船中阿蒙陀人あるを
傳へ皆アメリカ人なりと云ふ船ステワルトモ子
子ヲヨルクの老之といひし由ある人教は餘人へ
あるの阿蒙陀人ハ船にロイトと云ふ一人ハ船計役
ス、ワルトハ船取に唱へ由ある人外ハアメリカ人と
稱せし人もステワルトのれなりと云ふ子ニワツン
表向外科と稱した人も子ニモント子ニスミワトモ
ありと云ふ人なり
ふ此人ハ子ニイキリス稱之より又ハ教士人莫卧兒

人のよう、皆思ふなり。こゝに衣服を渡すのひき
いりて是れ初め渡すもの同く願ふ。常々
風流書のもと、華院必々イギリスと云ふ錢はよく
市度の法高報も奪去去年ハ渡海なりとも
おるなまじハたステワルトといふ此年咬噬を
の業人として日々交易を組合せし又列國
を握一歩掘進し高報がアメリカ合衆国の
形へ貨物を輸入する。勝利の誓を以て日中
中込におあんとある組且派役を押さ送状を
寄事業船に送りし。この方々のアメリカ合衆国の
形を用ひし事も必要の名を避んぞ。

必きアメリカ人ハ何をも以てイキリス人たる
 一水史のモール人なるも昂奇抑迫の者ぬ
 傍葛刺ハ大莫
 臥兎の属州なり
 お對整一とありて實ハ押しくかく
 たる一なり和榮人もとてこの道を知りて
 之れをも我邦に知れしむるは且彼れを吾れに
 るを何をも我々の夢、風説書もやと云ふは
 ステワルト實ハ船主なりと云ふ性柔和く人ハ小智之沈鬱研
 智の志と云ふと再びの害ありても知るは彼も自らハ
 一おとに列国より日本
 東海をゆく一と
 出立金イキリス船イキリス人
 たりと云ふと進み疑ひを起せし不富の多和の
 又按ずる八年ハ一イキリス船其八月我
 船乗地アツタと云ふ一九州界名の仲にも云ふ

寬政九年丁巳九月七日對別合之山扁

十六歳より小童より組人数大勢人神節骨違く顔色
不齊陰彼より相を波一衣服異なる者揃て急き一神色
赤黒又青色く振子振り有る人彼方より格別寫す

按、**魏****朝**の教キ、たゞ平々と横文を云せしむるのみ
よそハ其く市セーたる一

按、地形方位を以て換へる事

和長十八年徑有、本厚又史如方、櫛少、緒名化、
 冬、旗と建居、武急等、波不持居、系組、人較、凡、年、
 人、程、有、振、子、和、と、名、之、人、火、方、振、と、物、持、出、事、中、年、
 振

合ふと云ふ大角鳴出さる

九月朔日早人現れ北を急ぎ城に沖より坂を下りて
沖子を漕ぎ下りて急ぎ城に沖子を漕ぎ下りて
溪辺より溪に下り且て外に橋子を考へ上り船に由り
由

一何方一出帆波多風合出帆多致出帆に橋子を急
に舟より自船解人より波に帆に橋に帆に一とせし
一と少方と指し出帆難に橋子を急し又自分と船
と擲指せし一は帆に船に船に急し一と急し
急し急し急し急し急し急し急し急し急し急し急し
急し急し急し急し急し急し急し急し急し急し急し
急し急し急し急し急し急し急し急し急し急し急し

九月十日

按て七月概吏地工トモ(急急の工ケレス船に船
船に船に同年の月日急急急急急急急急急急急急
急急急急急急急急急急急急急急急急急急急急急急

一九月十日救射別船因早浦急急急急急急急急急
地方十里程に急急急急急急急急急急急急急急急急
大船と急急急急急急急急急急急急急急急急急急急
急急急急急急急急急急急急急急急急急急急急急急
沖急急急急急急急急急急急急急急急急急急急急急
翌十六日明方急急急急急急急急急急急急急急急急
急急急急急急急急急急急急急急急急急急急急急急

即ち往雷の晴き海上に晴る一舟不あるに由り来る

九月

按て古書に云く船の救艘するを不るべしと云ふ是
金心浦（東泊）を類船多し——此處に地海
をえ積りしものと思ふなり船の計数なり道
を又傳くを考ふるに必しイギリス船なり——
同十年戊午六月十日去年の如き船名傳入傳じやガ
メラ他出——去年の如き書も持来アメリカ人より
志上京——くる船はウイルシムロステワルトモ外
レ——モントラム古く申すに去年に無くモール人を
同——名見之此船の常院人——を人も亦来る也

風説書字

一去年中今迄急げ進み玉う大軍を發し——常院
必し押参及合戦あるに

一當年に新かひん常院交代に仕替はれしに去年
中上々進歩必節兵卒度進法高報し今も戦年お暮に
付欲軍治るに法高報より戦居に改是く若く米海軍
はれ自らいん戦しをえ受而に表を合ふなり昔年を以
當年もかひん常院より人進を不るも。う急る也む
らむ

此年の常院人をもも来る事む候む——按
こころステワルト船より去年のやうに對して

モールとふ玉出薬地の合書と考ふるに亞墨利加
例中より主名をとりてイギリスと云ふ例を分てるの
中一意而蘭太といふ列国に属する地はバルチモ
リス港なりと云ふハ此所の私なる人々がハアメ
リカ列国よりいふに多分知らくイギリスと稱をせ
るは亦誤なりと云ふ名を稱しと経るをさるゝのな
らんをこそ不審のハツ

同年同月八日入件アメリカ湖アメリカ湖ニウウエ
ルンと云ふ仕出に私形はなり私にウエルムステワルト
按てステワルト渡事は度々及ふは時四十余年を
るものニウウエ井オルクの名を稱せハ今も然る

乍度地方イギリス不願の地より仕出せる私なる
ニウウエ井ヲルクを亞墨利加湖に加入^{カナダ}
しと云ふ属する地なり然るを井オルクといふイギ
リスに服属する薬地事なりと云ふ即ち己の不願
地と云ふ数万里外のアメリカ湖井オルクなりと云
ふことと移出するものなり然るを彼れを悉く
乍度産物と云ふけり然る他名を記してイギリス
の名を記せるなりハ私に仕出せる^{天竺胡椒}
^{貴領地}を記せるなりハ^是不審のなり

同年同月八日入件ベンガラ私ベニガラ西にカルクエツ
テモ不^{貴領地}仕出に私にエーストウライ私に日

概して一説に北狄より紀号もなり人ハ弁振るハ
一種に服を授けたりと云ふハ
政羅巴極也モヤウ群多ハ伊裡利便之伯儻の男一人
つふよの こと亦不溜アメリカ人ハ但水更ハベニガラ
人ことと云ふハ 標葛刺ハ大英同界ハ屬
ある大西より中東法別中有名な英金なり和
榮瑞尼利無二玉の人皆さうして交易し
大利を嘗むるハ 是ハ弁振る和蘭より不溜高銀と
テカカリ越多なり南東の麻マ辣ラ襪ハと云ふ
ハ屬する大英の之國ハ標葛刺ハ屬する地ハ
何れもベニガラ船カルキウト仕出ハるハ事ハたのしく

な道ハヤと怪むハ 何と云ふ弁振るハ 船
取人ハ云々衣服なりと云ふハ 是ハ亦イキ
リスなるハ 船ハ中東よりなるハ 是ハ不害の十
文化元年甲子六月三日在信入津阿榮院北風説書云
六月十六日バタラ出帆北駛出ハ 是月三日入信
一級臺灣沖より多ハハ 是時中國戦争も年和
なりハ 是年ハ中東北はハ 併中東法地ハ高銀
と多年ハ戦争ハ國窮ハ未也ハ 是ハ不害の十
此年亦アメリカ船水更ハ不溜アメリカ人ハ 罽ケ祥シ也
イギリス之榮人ハ 何れハ 是ハ亦不害の十
キリスむかりハ 是ハ亦不害の十

同二年乙丑

は年の風説書矣と

同三年丙寅長壽
傳書船六月廿二日
免風說書

一箇年中箇不渡東山阿華陀永弘般之內寺般日月
寸寸受過也出帆仕海上云列乘今日中箇地之志存仕所
署

一去年ヤムエケレス必フラス必争端ハ候今ハ所
合衆ヤム版中必ヤム戦ハ必喧嘩起表ハ外張高銀
ト云ハ静謐ニヤム年ハ自必ハ船ヲ来胡估ヲ
又市度込法高銀進メ再建仕ルニ程年々戦年々
来ハ必争ハハ所必ヤム

一 魯西里私を股廣中表に渡すはゆき
一 去年の金はへちまふらんく我再渡はかび
えん金で進きそる

此年も所収并に人数去年の如く業人八人の
由なるに鑑りしもの足十二

凡説書多し一志ありても大抵其のや一室政
 九年以事文化丁卯と十年のる大不溜りなり
 船と稱する中より一椰子號の船来るなり
 けハ伊禮利順と思ふなり此等の年の状ハ
 唐を以て魯西亜人來りて礼婦たりとてみ
 の中より笑へり又翌年の年ハ東方エトロフ

騷礼^りに^て子希^ひ後^ごと^は是^{こゝ}を^も又^{また}長^{なが}徳^{とく}へ^は多^{おほ}く^く一^{いつ}般^{ぱん}を^も

文化四年丁卯四月廿七日曉在神戶上船。其船名
船名をこ通を以てし、アメリカのボストン船之廣也。
高き船なり。其船をえりて、船を寄る。とて、
二十六人を乗せ、道ハ六月廿日出帆。島原より出
る。五月九日申、中刻、此船毎をえりて、
何れ三里程、其船を駛りて、
廿十日、船ハ、
船と云。名、
さし、

後阮

按て其ころ擬其地陸動し以て月中旬前後津
 怪と松糸のるる号私多あり又其船は井仲もる
 しく浪をりり予は秋田の仲もるるしくあ
 沙佐もあつて是バボストン船なる事必せり吾輩は
 沙佐を及つても魯西亜礼婦のお扱なまは予は
 船西より早くて夷地への渡りをも伺ひしものな
 らんとも思ひてせり但しボストン船よりより怪し
 むきやうなり変へてみよとをふりて船をよせ
 するは船をも我西海を巡るし津怪松糸のるるを
 ぬけしは彼の要用の事なりと知ふ人相の

振子も、びききと、是亦イギリス船なり
 いふやうに、^{カナタ}北の書を、按て、ボストンに
 小亞墨利加例、^{カナタ}加拿太の南海に在るの要港
 昂イギリスの所領なり、イギリス新に名づけ
 るニウウロンドンといふニウウを新なり、ロンドン
 は、^{カナタ}南厄利亜の政府の名に、このボストンの例
 イギリスより同例なり、^{カナタ}新南厄利亜と
 稱するなり、^{カナタ}北の書に、自己に在るのボストン人
 航海をも、いふなり、^{カナタ}名々ボストンにて、突ハイ
 キリス船イギリス人なり、^{カナタ}且ボストンと申すも
 も、いふやうに、^{カナタ}寛政三年の魁也、^{カナタ}此の

海に併せ考ふ——交通のよく仕出せし船
 ちやや廣東の海船といふも怪しきを子細の
 りよく我海上とせし——なるべし又昂いキリス
 船のポスト——行くところふ事能く是不審の十四

同年六月十七日、長崎入港。阿蘇船、常風波、風流、出
島年、（？）、（？）、自由、（？）、渡来、在、答、（？）
必、外、法、高、敷、一、進、持、就、主、組、今、般、咬、咽、他、出、帆
之、以、上、内、帆、不、仕、（？）、自、般、（？）、内、壹、般、ア、メ、リ、カ、船、借、更、渡、来
仕、
仕、

はアメリカの私儲と云ふやうな在国の業と同じ要する
利加小例ニウツエオルクの私受唱也ふ事う片を

度いふ事と云ふ扱ふ事と云ふやうニウウエオルクを
諸厄利亜の領地あるハイギリス船を借りしと云ふ
——又ニウウエオルクに因「ニウウエアムスルダム」こそ
和蘭の所領なりと云ふ或は其船を御ふ借る
事不巧く及ぶ事——其船は度々一般イギリス船
なる——名を避けくアメリカ船といひたりや
今年ハ貨物の事も夥しく近年ニ違ふ事上
好の船が少なりとも其船は度々イギリス
船加——と云ふ思ふ和蘭船を加——ハ扱ふ事
次第なりとの事あり——ト云ふ事と云ふ事富の十二
程ハ其船の所領なりと云ふ事と云ふ事此船を知る事此の

船の前後の事違ふ事と云ふ又考へ違ふ事と云ふ疑
あり——と云ふ事と云ふ事——固より船密の所法な
るハ其船を借りしと云ふ事と云ふ事と云ふ事
書を讀く頗る其地が方位なり沿岸諸地興廢の
形勢を略く知る事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
順なりと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
山信山の山の外ハ偏し和蘭と云ふ事と云ふ事
事つる事と云ふ事又云ふ事と云ふ事と云ふ事
其方の地理方角不と云ふ事と云ふ事と云ふ事
らと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
之と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

とて此の如く思ふべし之既く大に疑ひ多き地なり
方角遠きハ花洋と云く程多しと云く是れ地
味に極く多し考へて一澤地方の事ハ洋土幾
百程に法編をも考へて一幸ひ一二年事也
許源東の和書も此の如く云ふに依りて書く因て海外
諸国の大畧ハ此の如く云ふに治民の一要なりと云ふ一
指自ら云ふに波く用なきやうな事をも波く我々志
を多しと云ふに云ふか云ふは是れ上り治民に云ふや
二百年以て考へ

神祖の遠慮也と云ふも率に申すのみと云ふも云ふ
（きり）

同日勅諭ハ仔細利便の爲め不始心中に秘の次第と
云ふハ云ふ事也

若曰の常院と仔細利便と云ふ云々云々昔より云々の
性事絶えども但し交際せしむるに或は他款となり
或は和親せしむるに或は度と云ふなりと云ふに云々
ト云ふ云々の以ての和書船より揚子風説書を集
めしと云ふに云ふ人の後と云ふに或は和親せしむ
度と云ふと云ふに云々の内云々書と云ふに云々二
十年前の後の教度の戦争に利を失ひ大に衰弱せ
るに云ふに云々の年々云々の風説書と云ふに云々
仔細利便と戦争の事と云ふに云々の云々也

渡来の高船年々との有云大小兵船ホソク河を
舟にハカク貨物も持渡らるゝと云々之
年同くの噂を以てハ平度の内河に據るゝ諸商人
銀を付利便の爲に奪止しと云ふ中「コロミンデ
ルキユスト」「ベンガラ」「セイロン」等又「アフリカ」の
喜望峯^{カウパ}とも年々しと云ふ此等ハ必し船を以て
一節ハは渡りて各貨物も仕出さるゝ要港と云ふこと
出帆しと云ふ頃此の「バタビヤ」等ハ順次利便し
セ子ラールと云ふ総督府にて天竺地方廣東日中も交
易の大小船を仕出さるゝと云ふ此等ハ皆要の喜望峯^{カウパ}
と船の平度諸高嶺を奪止しと云ふ竊厄と云ふものなり

相中にも取れさて総王もイキリス等國まで成て居る
とも又四つれハ五年魯西亜渡道の厚ありとも又
是はお遠もあつし此等とも七王持分の金あり総王ハ
橋となりても減却王ハ必し取執なりと云ふ要港必しハ
是れ何れもしては必し大に衰微せしと云ふ依り
當時ハ船隊もこれとも彼も勢を吞んで船も難
と云ふに運送しと云ふぬハ必しや云々イキリス
在望峯橋葛刺の商館ハ還せし則ち意蘭の侵地
ハ度され外に代地を以てしと云ふこれハ必し
さうや知れし付利便の爲に奪止しと云ふ中「コロミンデ
ルキユスト」「ベンガラ」「セイロン」等又「アフリカ」の
喜望峯^{カウパ}とも年々しと云ふ此等ハ必し船を以て
一節ハは渡りて各貨物も仕出さるゝ要港と云ふこと
出帆しと云ふ頃此の「バタビヤ」等ハ順次利便し
セ子ラールと云ふ総督府にて天竺地方廣東日中も交
易の大小船を仕出さるゝと云ふ此等ハ皆要の喜望峯^{カウパ}
と船の平度諸高嶺を奪止しと云ふ竊厄と云ふものなり

——保てゝ地居要害も蔽すなり——又総督もなて
西押あり有客易しハ多し付ぬなり但し督を以
日牛の商船と催合——なり難題——肯むせざるをも
強てこれを其とし或ハ常船と紛——他地名杯を称
して名修一耳ばりせ——と云く大の徳ハ条件を弁す
ふ——あり——獨立てゝ常船他邦の船なりを居つて
存利利原を思ひ事——とあせ——若し後事——常
船ハ初首と稱すの記号あり——を事ハ記号のね絶て
居——すとも事然らハ初常人ハ記号を日牛人あるハ云く
事——なり——今り——と云く福——いひれ——實を吐さるハ
事——いひ——自ら自玉の表——初等を外玉——明すも其の

先者なり——けハと蔽ふなり——人情已むるを以て
ハ記号なり初常とし——小玉とし——他の大邦と
比肩——又三洲中——あり同振——て我有となす——地
多く古儀の常法機智他は有れ——と云く——是も其の
紋付置のいむ——と云く——下くこれども紋となす——味方となす
と我何處といふなり——と云く——又冊巻を以て——あり
と云く——つ——と云く——知れざる玉あり——先ハ掩ひ隠しんや
と云く——初より——と云く——初より——と云く——初より——
推察の所取上つき事ハあり——と云く——
同曰存利利原いふなりハ初常と事ハ我日牛——後ら

何るるやある年 魯西亜の新起攻入人として先
手那瑪^マ^マ^マ加と打破不敵下の絶多遠く新起り進軍
さしと名をよき入むとす所何なる所や極風大
由年終として起りて軍終るに渡くのなり一戦も及
びて魯西亜人の為は法那皆屠となりぬれと
女帝エカテリナの代に帝大に運報しとて一接兵此
國の多き志布し初のちき運言天にこれと陳
くも罪付人あくくも七種くもて罪を悔
逆を咄く折言約とすも永く臣服する事となり
と厚あるありと厚あり又厚ある月のありと臣服
怖とみしは伏者の船イキル海上を好の首暗る

されけ初め向ひ大砲を放てて軍船あり伏者人とし
て帆柱の上をせせきといふと曰われは魯西亜王帝
より日本伏者の船なりいつくの船なりと彼を
て我より射すやと彼これをきて逃る情し方る帆を
ありて一万人船ありなり中船潜き付け射し
曰われはイキル軍船くは海上初にこれに科高き我
を新起るも軍船なりと空濠中又控の軍船
射し初めの方を家出さしは敵もも先鋒に
多きれといひしは伏者しす下更にこれと水引も
依り居るも之は脅かすを衛ありても矢張を陳
射しられとも終る者人せき終る三人をとり

み心は金さして金ささるゝこそまゝ人々彼等ハ
主の傳ふありて金と取と提金とせざるは
とてこれハあると怖るゝもこれを評漫とし
てゆゑなるが勝を嘆むも及ひさかたむ
いホ余の臆度よりゆゑなりて天下の金運者
其の時勢を察すゝ疑て彼るハ変はるゝ
用あり侮て彼る人々盗をみて懼たふの情
もあらんやめく遠きよりなり

四景のありゝこと何れも神皇の局とあり
とて此の外冠は傳ふことすゝ一昔なりし
とて今もなりしとて一昔なりしとて九日西

陽境とあるのれなり人々ゝそ近後あるの
和常の書ゝゝ下金主邦の地尾位遠を
各々の伝礼真教之威の伝弱を哀たふの
國あるのれなりと知りて不慮を待た
しと傳むて頼朝すゝなりとてさう年々
ゝ士氏安後る目と消しこれハ今御魯西
王の外冠ありゝ却て我氏を哀ふの業解
ゝこれとて傳ふを請するの時とやい
はく木のれ木のちきま那のわ氏ありゝ
年々平の仇を戴人々ゝとてなり
以下伊勢利原の事由を同尋すゝ

